

おわりに

「百年の計、我にあり」

今春、別子銅山を舞台に、明治産業維新に挑んだ広瀬幸平と伊庭貞剛の半生を描いたドキュメンタリードラマが全国放送されました。

広瀬幸平は言いました。

「命に逆らいて君を利す。これを忠と謂う」

国家や社会の利益になることなら、あえて上の命令に逆らうことも辞さないという強い信念と覚悟を持ち、国家百年の大計を見据えて、日本産業の近代化に力を注がれた広瀬幸平、伊庭貞剛お二人の英知と偉大な功績に触れ、改めて先人の偉業に学ぶとともに、長い歴史の中で培ってきた「ふるさと新居浜の誇り（プライド）」を百年先の未来に継承していかなければならないとの思いを強くいたしました。

未来を切り開いていくことも忘れてはなりません。

「一年の計は、穀を樹うるに如くはなく、

十年の計は、木を樹うるに如くはなく、

終身の計は、人を樹うるに如くはなし」

これは、中国春秋時代、斉の宰相であった管仲の言葉です。

「一年先を考えるならば穀物を植えるのがよい。十年先を考えるならば木を植えるのがよい。そして、百年先を考えるならば、人を育てるべきである」

喫緊の課題への対応はもちろん重要であります。十年先、さらには百年先を見据えた「ふるさと新居浜」のあるべき姿とそこに暮らす人々の幸せを考えていかなければなりません。

新居浜市の歴史を振り返りますと、元禄4年（1691年）の別子銅山開坑以来、これまで「ものづくりのまち」として経済的、物質的な豊かさに重点を置いた取組が進められてまいりました。しかしながら、第二次大戦後の高度経済成長を経て、人間の生き方そのものが見直される中、「豊かさ」に対する考え方が、「物質・物の豊かさ」から「精神・心の豊かさ」を重視する考えに変わりつつあります。

折しも、昨年7月に、美術館や小劇場など本市芸術文化の拠点となる待望の総合文化施設「あかがねミュージアム」がオープンしました。さらに、来年、平成29年は市制施行80周年という新居浜市にとりまして記念すべき年を迎

えます。また、時期を同じく平成29年秋には、「愛顔^{えがお}つなぐ えひめ国体」が新居浜の地においても開催されます。

こうしたことから、平成28年は、地域再生から地方創生へと取組を深化させていくにあたり、人々の生活に潤いと安らぎを与える「芸術文化」の振興と健康で生きがいのある暮らしができる「スポーツ」の振興を新たな着眼点とすることで、「心の豊かさ」と「ふるさと新居浜の誇り」を醸成し、これまでも増して、市民の皆さんが幸福で豊かな生活を実感できる市政を推進してまいり所存であります。

どうか、議員の皆様、市民の皆様におかれましても、「ともにつくろう笑顔輝く新居浜市」の実現に向けまして、チーム新居浜の一員として一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。